

調査団体名	自然体験工房NENO	団体代表者名	赤尾友和
設立年	2004年	団体URL	http://tao.enat.jp
活動地域	中津川市根の上高原	調査員	市川、杉野
取材日	2009/12/5	レポート作成者	市川真奈美
ザ・インタープリター「アカポン」			
<p><活動内容></p> <p>1)ネイチャーガイド:根の上高原をフィールドに、落ち着いた案内、木曾川上流域であることを意識したガイドを心がける。</p> <p>2)インタープリター:ネイチャーガイドとは少し違い、もっと奥深い話をする。</p> <p>3)自然保護:生活そのものが自然保護である。</p> <p>4)クラフト講師:子どもたちを受け入れ(恵那山荘との協働)、自然の大切さを伝えながら、楽しくクラフトを学ぶ。</p>			
<p><会のモットー(何を大切にしているか)></p> <p>参加者が楽しいイベント→自分の意見を控える。</p>			
<p><設立から現在に至るまでに変化したこと></p> <p>リピーターが多いので、各参加者の気持ちや心構えが変化している。危険予知ができるようになってきた。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <p>岐阜県、中津川市</p>			
<p><今までに行った調査・研究></p> <p>岐阜県定点調査</p>			
<p><現在直面している課題></p> <p>金と意識。あらゆる面で資金が足りない。参加者の人たちの底上げがしたい。</p>			
<p><今後やってみたいこと></p> <p>地域おこし→稼げる田舎をつくりたい。 そのために、自分は先陣を切って進みたい。</p>			
<p><そのためにはどんな情報・人脈が必要か></p> <p>行政とのパイプ。地元の人脈。</p>			
<p><チームオリジナルの質問></p>			
質問内容:	流域との関わりは?		
答え:	ネイチャーガイドをしていると、川の上流で、自然に生かしてもらっているということが身にしみて感じられる。根の上高原の自然を、もっと多くの人と分かち合いたい。		

<その他、伝えたいこと>

赤尾氏の名刺には①森林インストラクター ②岐阜県里山インストラクター ③保古自然館野外活動指導主任 ④中津川市観光協会理事 ⑤根の上高原観光保勝会事務局 ⑥満月団団長 とある。

赤尾氏に取材した場所は、保古自然館。ちょうど、小学生向けのクラフト教室が行われていた。子どもたちは赤尾氏のことを「アカボン」と呼ぶ。子どもの目線で自然の大切さを説く赤尾氏はまだ若い(37歳)のだが、ベテランの指導員である。赤尾氏は、自然体験指導者に対する、危険予知講習の講師もしている。

幼い頃から野山を駆け巡った野生児のような風貌と、細やかな気遣いに魅せられるファンが多いのもうなずける。また、赤尾氏は、時間があると庭師の元へ修行に出かける。本当の庭師には、自然保護におけるヒントがたくさん隠されているという。学術的なガイドよりも、山の心を伝えるインタープリターとして生きていきたいと語る赤尾氏。

また、満月団といういかにも彼らしい活動をしている。満月団とは、満月の夜に集まり、月明かりの中、湖にボートを漕ぎ出すのだそうだ。人間も動物の一種に過ぎない。そんなことを改めて考えさせられた。



保古自然館にて



赤尾氏



アカボンのクラフト教室